

E-20 新潟地方における家屋内の湿度に関する調査
奈良女大家政 ○大内佳子 梁瀬度子 花岡利昌

目的 積雪地帯である裏日本一帯の冬季の低温・高湿は広く知られている。とくに最近
は住宅室内の気密性が高くなり、さらに暖房器具の使用が住宅内の湿度増加を助長してい
るのが現状である。そこで生活環境学の立場から、湿害の実態について詳細に調査し、防
湿の方法について検討することを目的とし、主として新潟市内の住宅を対象にとりあげ、
まず実態調査を行なった。また、最近急激に普及している低温用除湿機の使用実態につい
ても検討を行なった。

方法 新潟市内A高校の生徒の家庭145戸に対し、住宅の構造・生活状態・暖房器具の種
類と使用状態などと湿害の有無に関するアンケート用紙を配布し、後回収した。また除湿
機を使用している家庭50戸に対しても同様のアンケート用紙を配布し、必要に応じて戸別
訪問を行ない聞きとり調査を行なった。調査期間は1976年2月～6月であり、回答は主婦
に依頼した。

結果 調査の結果全体の約半数(52%)が湿害を訴えており、「蒲団・ベットのしめっぽい」
「窓・壁の露がひどい」「畳・じゅうたんがしめっぽい」「押入の中がしける」「カビがはえる」等
カビと結露に悩まされているようである。しかし、防湿対策についてはあまり考えておら
ず、ストーブにやかんをかけている家が多かったり、また暖房中に室内に洗濯物を干す等
しており住人の問題意識およびどうしたら放湿源を減らせるか対策が望まれる。一方除湿
機を使用している家では放湿源を減らそうとする努力がみられ、またこれを使用している
理由は「蒲団・ベットの湿気を除くため」というのが一番多かった。